

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月1日

事業所名：玉野市児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	指定基準に遵守し、スペースを確保している。しかし、活動内容によって空間の狭さを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動スペースの確保が必要である。クラスで利用日を決め、スペースの確保に努めている。 ・制度上は問題ないが、ロッカーやパーティションなどの空間設定により、狭さを感じる。 ・時間帯によっては、プレイエリアの中の子ども的人数が多く、狭く感じることもあるため、デイリーの組み方に注意する。
	②	職員の配置数は適切である	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応を強化するために、指定基準より多くの職員を配置している。 ・当日の子どもの利用状況に合わせて、適切であると思う。 	常勤の数がもう少し必要だと思うため、次年度に向けて人員の検討を行う。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	TEACCH プログラムの考えを用いて、物理的な構造化を行ったり、子どもの様子に合わせて構造化を行ったりしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の作成した、季節の製作物などを飾るなどの環境面に配慮している。 また、行事や季節に関する音楽を流し、子どもたちが楽しい雰囲気を感じられるようにしている。 	

				<ul style="list-style-type: none"> ・毎日掃除を行い、ハイターやアルコール消毒を行っている。 ・子どもの様子に合わせて、定期的に玩具を入れ替えている。 ・毎月、安全点検表をもとに確認している。 		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に職員会議を開き、改善に努めている。 ・主に担当職員がしている。 	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	ガイドラインでの評価や、行事終了後にアンケートを実施し、改善に努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	事業所、保護者ともに実施したガイドライン評価を行い、書面での回覧とホームページで公開を実施している。	結果の省察や改善が必要と思われる。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1	県民局からの行政監査、実地指導を受け、業務改善と適正化に努めている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・内部・外部研修に参加し、自己研鑽に努めている。また、法人全体での研修（虐待防止研修、実践発表など）も増えている。 ・勤続年数に応じて研修を行っている。 	
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望（目標要望表）を確認し、個別支援計画を作成している。 	

支 援 の 提 供		した上で、児童発達支援計画を作成している			<ul style="list-style-type: none"> ・クラス職員や責任者と話し合いの場を設けて作成している。 ・カンファレンスシートを用いて、プラン作成を行っている。 ・十分ではないが、自分たちと知識を駆使して作成している。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を作成する前段階で、発達検査を実施し、発達段階を把握するようにしている。 ・遠城寺式、太田ステージを用いている。 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画内に領域を設け、具体的な支援方法が作成せれるように努めている。 ・職員間で誤差がうまれないように具体的な支援内容を考え、設定している。 	「家族支援」「地域支援」について、具体的な支援内容を考えていくことが必要。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	日々記録を作成し、支援計画通り実施されるように努めている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任での話し合いの場を設けるようにしている。（日々の振り返り） ・定期的にカンファレンスを行っている。 	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や施設外活動を取り入れるようにしている。 ・行動観察記録を見ながら、活動の偏りがないように注意している。 	

	⑩⑥	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達に合わせて、個別と集団の活動を取り入れている。 ・必要に応じて、クラス合同で活動する時間をもうけている。 	
	⑩⑦	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	朝礼など必要事項の確認を行うように努めている。(日誌の活用)	パート職員の出勤時間が9時であるため、開所前に打ち合わせが難しいが、流れを9時半までには伝えられるようにしている。
	⑩⑧	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に療育終了後に振り返りの時間を設け、今後の支援につなげられるように努めている。(担任間) また、情報の共有をはかるために、ノートの作成も行っている。 ・重要なことはその日のうちに共有し、翌日からの支援につなげている。 	
	⑩⑨	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	行動観察記録に支援内容を記載するようにしている。	
	⑩⑩	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスを実施し、見直しを行うように努めている。 ・相談支援専門員と連携を行っている。 	
	関係機関や保護	⑪①	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	管理者・児童発達支援管理責任者・担任が参加するようにしている。
⑪②		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・必要に応じて、保健師等との連携をはかるように努めている。	

者との連携関係機関や保護者との連携				・他機関のOT、PT、STと連携をはかっている。また、他の事業所の見学も行っている。		
	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当利用児なし	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当利用児なし	
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	書面での引継ぎだけでなく、関係職員に来所していただき、お子さんの様子を確認していただくようにしている。	
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	書面での引継ぎだけでなく、関係職員に来所していただき、お子さんの様子を確認していただくようにしている。	
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	外部研修に参加し、他県、他の市町村地区の情報を得るように努めている。また、専門家によるコンサルテーションを受け、療育改善に努めている。	
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	1	回数を確保できていないが、地域の保育園へ訪問し、子ども同士の活動を実施している。	おでかけやおさんぽで、交流する機会ができたが、もう少し交流する機会があればと思う。

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	0	地域の部会に参加し、情報共有をはかっている。	
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	お迎えの際に、口頭で説明したり、連絡帳等で知らせたりするように努めている。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回勉強会を実施している。また、保護者会主催の勉強会もある。 ・個別支援計画の中に、家庭でのプランも入れることで、保護者の方と連携して支援を行っている。 	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前に説明会(入園説明)を実施している。また、変更等があった際は、その都度書面等を通して説明している。 ・職員間でも情報の共有をはかっている。 	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	懇談日を設定し、個別支援計画の内容を一つひとつ説明し、同意を得るようにしている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	懇談日や家庭訪問、相談ノートを通じて、保護者の方の相談にのれるように努めている。	長期間休んでいる子どもの保護者の方に、話を聞く機会があればと思う。そのため、状況による判断や、保護者の方のニーズの確認を行う。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会主催のもと、勉強会や食事会などの交流の場を設けられている。 	

				<ul style="list-style-type: none"> ・おやじの会を通して、父親同士の交流の場をもうけている。 	
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	懇談日や相談ノートを通して、保護者の方の相談に対応できるように努めている。	
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	通信等で情報発信している。	
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報については、施錠できる棚に入れて管理している。また、必要なものについては書面を通して、同意を得るように努めている。 ・個人情報を破棄する際は、必ずシュレッダーにかけるようにしている。 	
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	口頭だけでなく、必要に応じて書面を通じて伝達するようにしている。	
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5	センター行事などに、地域ボランティアの方に協力を依頼している。年度によって、開催する内容を変更している。(絵本キャラバン、ほっこりコンサート、ミニコンサート、クリスマス会)	地域の方と行事を共にする機械が少ない。同世代の子どもや大人、学生など様々な方ともっと交流を深め、子ども達のことを多くの方に知っていただきたい。子どもたちが成長していく中で、保護者や職員以外方との関わりをもてるよう、交流の機会を検討していく。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	マニュアルの作成と、職員への周知と共有をはかるようにしている。	年度によっては実施できていない訓練もあるため、年度によって実施する内容を想定して計画を立てる。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	様々な場面を想定し、月に1度避難訓練を実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	利用開始前に聞き取りを行うと同時に、必要な事項に記入した書面の提出をお願いし、確認している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	アレルギーの利用児については、医師からの診断書を提示していただき、厨房職員にも確認してもらうようにしている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハットファイルの作成を行い、共有をはかっている。また、安全委員会でも事例を取り上げての検証を行うようにしている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	外部研修に参加し、知りえた情報をもとに、法人研修として実施している。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	身体拘束についての書面を保護者に提示し、理解をはかるように努めている。また、個別支援計画にも記載し、同意を得るようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。